

14. 2. 4

阪井祐基子委員長 御中

平成26年2月3日
藤沢市の教育を考える会
代表 渡辺 元実

藤沢市
(TEL)



はだしのゲンについての請願

日頃は何かと藤沢市の教育について、ご尽力を頂き誠にありがとうございます。さて今年の8月松江市教育委員会では取り上げられたマンガ図書『はだしのゲン』について請願させていただきます。またはだしのゲンの実例を2～3添付させていただきますのでご覧ください。

1. ご承知かと思いますが、はだしのゲンは昭和48年少年ジャンプで連載がスタートしましたが、1年半で終了、本来ならそこで忘れ去られる所を、朝日記者や大江健三郎氏が盛んに持ち上げた結果、昭和51年から共産党系機関誌、昭和55年から日教組系の機関誌で連載が続けられたとのことです。本来ならマンガ本は図書室に置いてはいけないにも拘わらず、日教組の教師たちによって置かれてきたことに不信感を覚えます。

私も早速図書館で借りて読んで見ましたが、天皇を誹謗中傷し、国旗、国歌をないがしろにし、一方的に残酷な戦争場面を日本兵のものとして押し付けていることに、驚愕すると共に怒りを覚えました。

私も4歳を頭に4人の孫を持つ身として、孫たちには絶対に見せたくないマンガ図書であると思いました。

2. はだしのゲン全10巻には天皇に対する誹謗中傷が度々ありますが、別添の天皇を殺人者呼ばわりし「のうのうといばっているので、日本人の手で裁判をやらんといけんわい」とあり、その他にも「あの貧相なつらをしたじいさんの天皇、今上裕仁を神様としてありがたがり、デタラメの皇国史観を信じ切った女も大バカなんよ」等々。

このような考え方は到底日本人の考え方とは思われません。

或いは外国勢力と結託した、えせ日本人でしか書けないことです。

2年前に藤沢市で採用された「新しい日本の歴史」(育鵬社)に昭和天皇欄(P233)がありますが、日米戦が決定された昭和16年9月の御前会議で明治天皇の御製「四方の海 みな同朋(ハラカラ)と思う世に など波風の立ちさわぐらん」を示され、戦争より交渉継続を示されたことが記されていま

す。また終戦の年の9月マッカーサー元帥を初めて訪問した際「私の身はどうなろうと構わないから、国民を救ってほしい」と言われ、マッカーサー元帥をいたく感動させています。天皇が終戦を決断した時の御製は「身はいかになるとも いくさとどめけり ただたふれゆく 民をおもいて」があり、天皇のご覚悟が伺えます。

私も教科書採択活動に関わり13年になりますが、平成17年の際は韓国からの要望書（作る会系のものは採択しないで欲しい）が40通近くもあり、天地がひっくり返る程の驚きを経験しました。（後にこれらは俵義文氏らが韓国へ行き、画策した結果であることが判明）

このような外国との結託勢力の活動をこの際断ち切らねば、再び同様のことが繰り返されると思います。

3. はだしのゲンには「君が代なんか誰が歌うもんか、クソクラエじゃ 君が代なんか 国家じゃないわい、みんなわたらの卒業式じゃ わしらの歌を歌おうじゃないか」と生徒たちを煽動し、みんなで「青い山脈」を合唱する場面があります。

国旗、国歌については都教委の「通達」や「校長命令」に対する訴訟で、1審判決は違憲とされましたが、その後法改正の影響もあり平成23年2審、最高裁共に教職員側の敗訴が確定しています。

従って上記のゲンの言動は時代遅れであり、いたずらに子供たちを惑わすこととなります。また国旗、国歌は国民のいろいろな思いが込められており、小中学校時に国旗をきちんと掲げて、校長先生より祝日の意味をお話頂かないと、単なる祝日で終わってしまいます。

私は毎年2月11日の建国記念日に仲間と鎌倉駅前に集合し、八幡宮へお参りしていますが、駅から八幡宮までの商店街で、国旗を掲げているお店は皆無とってよいでしょう。

10歳位までに国旗、国歌に対するいわれや敬愛を、学校で教えなかったらどこで教えろと言われるのですか。

4. はだしのゲンは別添にあるように日本軍の将兵が「妊婦の腹を切りさいて中の赤ん坊をひっぱり出したり」「女性の性器の中に一升ビンをどれだけ入るか叩き込んで骨盤を砕いて殺したり」とあり、その他「日本軍は中国、

朝鮮、アジアの各国で約三千万人以上の人を残酷に殺してきとるんじゃ」とか「わしや日本が三光作戦という、殺しつくし、奪いつくし、焼き尽くす、でありとあらゆる残酷なことを同じアジア人にやっていた事実を知ったときはへドが出たわい」等と日本軍将兵を罵倒しています。

私は藤沢市在住の岡本行夫氏（現在マサチューセッツ工科大客員教授）の新現役ネットに所属し、同好会の一つである近現代史懇談会を仲間と立ち上げ、12～3年になりますが上記のような事例は日本軍のものではないと断言できます。

何故なら昭和2年の第1次南京事件、翌年の済南事件、そして昭和12年の通州事件は当時現地にいた日本人居留民が、はだしのゲンに見られるような猟奇的虐殺によって、いずれも同じパターンで殺害されています。これらの事件の蛮行は国民を驚愕させ、当時の外務大臣の幣原外交を軟弱外交として批判する国民の声が、以後の国政、軍政にも反映されていったことを歴史の教訓とすべきです。

また三光作戦についても、戦後シナに拘留され洗脳教育を受けた日本軍将兵たちが、帰国後「中帰連」という組織を作り広めたものですが、検証「旧日本軍の悪行」（田辺敏雄、自由社）等により否定されています。

最近私は「日本が戦ってくれて感謝しています」（井上和彦、産経出版）、と「日本は何故アジアの国々から愛されるのか」（池間哲郎、育鵬社）を読み、中国、韓国以外の東南アジアの全ての国々が日本に感謝をし、リーダーシップを期待していることを知りました。

最期にまとめさせていただきますが、はだしのゲンに盛り込まれた考えは日本人の考えではありません。これは私が9条の会へ参加した際や、南京事件の発表の小集会の際、執拗に反対意見を述べた人との接触等を通じて感じたことです。南京事件は東中野修道氏の台湾党史館における極秘文書の発見により、プロパガンダ戦であったことが判明しています。

藤沢市の否日本の子供たちの将来を他国（中国、韓国）人に委ねても宜しいですか？ 断然NOです。従って‘はだしのゲン’を藤沢市の小、中学校の図書室より早急に撤去されるよう請願致します。

以上